

**JENESYS2016（派遣プログラム）**  
**（派遣国：ブルネイ・ダルサラーム国/ 高校生）の記録**

**1. プログラム概要**

対日理解促進交流プログラムの一環として、日本の高校生および引率者計 22 名がブルネイに派遣され、日本の経済、産学、歴史、自然、文化に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、3月7日から3月15日までの現地8泊9日の日程でプログラムを実施しました。参加者はバンダスリブガワンの学校2校を訪れ、同世代の現地学生と有意義な学校交流を行いました。彼らは、日本、また地元の山口県の特徴や特産、伝統文化、日本の四季と伝統行事、日本語の基礎、日本で流行りのゲームなど、バラエティに富んだ内容を織り交ぜての発表と実演を行い、現地学生の関心を引き付けました。現地学生やホストファミリーとの交流から多くを学び得た参加者は、プログラム中も SNS や高校の HP・ブログを利用して、プログラムを通しての経験を発信し、また、帰国前の報告会では、派遣地での気づきと経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）を発表しました。

**【参加校・人数】**

山口県立下関西高等学校 22名

**【訪問国】**

ブルネイ・ダルサラーム国

**2. 日程**

3月6日（月）	【オリエンテーション】（国内）
3月7日（火）	羽田空港より出発 —ブルネイ着
3月8日（水）	【表敬訪問】在ブルネイ日本国大使館 【日系企業視察】MC バイオテック
3月9日（木）	【学校交流】 Maktab Duli, Six Form Centre 【表敬訪問】文化・青年・スポーツ省（局長）
3月10日（金）	【歴史的建造物】【伝統文化体験】【市内視察】 マングローブ～水上集落 ロイヤル・レガリア、モスク、王宮、商業施設
3月11日（土）	【学校交流】 Sayyidina Hasan Secondary School
3月12日（日）	【ホームステイ】
3月13日（月）	【市内視察】セリア油田地区一帯（～ビリオンバルル・モニュメント） 【ワークショップ】
3月14日（火）	【報告会】/ブルネイ発
3月15日（水）	羽田空港到着

### 3. プログラム記録写真

	
<p>3/8【日系企業視察】MCバイオテック： ブルネイの産業事情と会社概要についての説明</p>	<p>3/9【学校交流】マクタブ ドウリ シックス フォームセンター（大学予科）：今を生きる伝統 実演よりー四季の行事・七夕を紹介</p>
	
<p>3/9【表敬訪問】文化・青年・スポーツ省</p>	<p>3/10【市内視察】：水上集落（カンポンアイ ル）を散策、一般家庭を訪問</p>
	
<p>3/13【ホームステイ】</p>	<p>3/14【成果報告会】：プログラム中の気づき および帰国後の活動計画案を発表</p>

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ 山口県下関西高等学校 生徒

今回の訪問は私の視野を大いに広げました。驚いたことはいくつもありますが、第一に、国民ほぼ全員がマレー語のほかに英語も話せるということです。ブルネイでは英語教育が5歳から始まるそうですが、学校内でも普通に英語で話していたり、流れてくる音楽の歌詞が2カ国語だったりと完全に実用的な英語能力には大変驚きました。日本も見習うべき点のひとつだと感じました。さらには、愛国心にも驚きました。国王陛下への信頼が厚く、豊かな土地もあり、母国を誇りに思っていました。その、国をより良くしたいという想いが発展を支えているのだと感じました。

この経験を通じて、日本の仕組みや環境を基準に考えるのをやめなければいけないと感じました。例えば、現在、日本では多くの宗教が混ぜ合わさった文化があり、近代化の流れによって私自身は宗教も次第に互いに寛容になっているのだと思っていました。しかし、ブルネイではイスラム教を中心とした政治が実際にあり、それは現地で滞在するまで理解し得ない貴重な経験でした。海外に行くとき必ず直面するといってもよい文化の一番の違いは、私の場合は宗教の違いでした。

10日間のプログラムの中で、現地でも初めての海外の友達ができただけでなく、同行した19人の下関西高校の生徒とも仲良くしていただき、人脈が一気に増え、そして視野も全世界に広げることができました。同じ国の人でなくても友達になれるというのは大きな励みになりました。二度とないチャンスをくださった先生方やブルネイの方々、両親その他支えていただいた多くの人に感謝し、ぜひこの経験を生かし、これから日本の魅力を発信したいと思えます。

##### ◆ 山口県下関西高等学校 生徒

私は今回の派遣プログラムに参加し、実際にブルネイ・ダルサラーム国へ訪れることができた事を本当に嬉しく感じます。プログラムの参加にあたって、私達は約半年間をかけて準備してきました。しかし、日本から離れてブルネイへ足を運んだ事で、自分たちの調べてきた以上の多くの知識と衝撃と感動を得ることが出来ました。

まず、私達の目に飛び込んできたのは沢山の日本製の車でした。車を使う機会が多いと聞いていたブルネイ社会の一部に日本車が多く見られることは、日本車の海外での人気を良く表していたように思います。日本の車は世界的に有名だという話は耳にすることは有りますが、実際に目の当たりにしたことで、こんなに使われているのかと改めて気づくことができました。又、ホテルやホームステイ先では、エレベーター、洗濯機や冷蔵庫などの電化製品にも日本製のものがありました。プログラムで訪れたMC BIOTECHなどの日系企業の進出も、日本の技術が世界で求められているものであることを意味しているように思われます。「made in Japan」の世界への影響をプログラム期間の中で非常に感じられました。そして、ブルネイの高校生の英語能力に私は驚かされました。日本では英語を使う機会自体が少なく、英語を流暢に話せる人と言うのは多くないように思います。しかし、これから日本も世界とのつながりが不可欠です。同じ高校生と話す事で、ブルネイの英語教育の水準の高さが良く分かりました。

日本がこれから、世界で活躍する人材を育てていくために、世界の英語教育に目を向けるという事は大切な事なのではないでしょうか。

日本は約 200 有る世界の国の一つではありますが、他の国へ与える影響は大きいように感じました。日本を客観的に見る事で、当たり前とっていたものは誇るべきものであったと気付く事が出来ました。今回の体験は自分たちの目で見て、耳で聞いて、鼻でにおって、口で味わって、手で触って、心で感じて得られたものです。それらを個人のものだけにせず、SNS 発信などを通して、多くの人と共有し、日本の魅力を再認識し、又、ブルネイの魅力を知ってもらいたいと思います。どちらの国が優れているかではなく、それぞれに異なったその国の良さがあります。日本を取り囲む国に日本の良い所をアピールし、その国々の良い所を取り入れ、日本をより良い国にしていきたいです。

#### ◆ 山口県下関西高等学校 生徒

私はこのプログラムに参加するまでは国名という形でしかブルネイ・ダルサラーム国の事を知っていませんでした。実際、この派遣プログラムの滞在を終えて、相手国への理解を深めるのは勿論の事、世界における日本の立ち位置を知る事が出来たように思います。現地では多くの日本製品を目にしました。このことから、ブルネイとの日本がいかに友好的な関係を築いているかという事を感じました。学校訪問の際は沢山の学生が興味を持って熱心に私達のプレゼンを聴いてくれ、自身の手応えも得ながら最高の時間を過ごせました。それと共に驚いたのは、日本の四季や慣習について、私たち日本人が他国にも良く知られているであろうと思っていた事について、全く浸透していなかったという事でした。一方でアニメ、マンガ等のポップカルチャーは、ほぼ最新の情報を共有できるといった繋がりも見つけられました。食文化に関しては、栽培される物の違いから生まれる差こそあったものの、同じアジア圏として調味料等といったところで、共通点を見つける場面もありました。逆に日本ではおよそ観察することのできないマングローブ林や水上集落での暮らしは、私の身の回りにはない自然の豊かさや興味深い文化を沢山吸収する大きな転機になりました。

このプログラムを通じて、ブルネイと言う素敵な国について体をもって学べたと共に、先にも述べた「意外にも」知られていなかった日本の魅力を発信し、とても心の温かなブルネイの方々を始め、より多くの国の方々に「親日」家、そして「知日」家になって頂きたいと強く願うようになりました。島国という土地柄もあってか、日本人は自国の魅力に気付いていたとしても対外的な発信に対して非常に消極的であると、日本を離れて学べたと思います。日本が 2020 東京五輪等の国際的イベントを行うにあたり、対外関係をより強く固いものにする為に、まずはこの派遣団という規模から、やがて世界中に日本に興味関心を抱いてもらえるような活動を始めて行きます。ブルネイで教わった事、感じた事を、これからは世界を相手に色々な架け橋を築くために生かしていきます。

## 5. 受入れ側の感想

### ◆ マクタブ ドウリ シックス フォームセンター 生徒

派遣団が紹介した日本に関する事柄を理解できたので、派遣団の発表は印象的であり大変興味深いものでした。日本語、日本の文化、先端技術や訪れるべき名所について述べていました。また、彼らは楽しいゲームを教えてくれたり、日本語や漢字を教えてくれたりしたので、プレゼンテーションをより一層楽しむことができました。これには大変感謝しています。日本の学生の皆さんは自信に満ちており、パフォーマンスもとても立派で、日本についての発表の出来栄もすばらしかったです。

交流プログラムを通して、信頼を構築し、新たな友人に出会うことができました。日本の学生の皆さんと容易にコミュニケーションができ、日本についてより一層の知識を得ることができたと思います。

### ◆ サイディナ・ハサン セカンダリースクール 生徒

派遣団の発表とパフォーマンスは大変印象的でした。詳細な発表だったので、日本人に対する見方が変わりました。それ以外にも、日本に行って、様々な場所を見て回りたくなりました。発表を通して日本がいかに美しい国か理解することができました。

交流プログラムを通して、多くのことを習得でき、新たな友人と出会い、日本についての知識を得ることができました。日本の学生の皆さんは大変印象的で、日本に対する見方が変わりました。彼らは礼儀正しく、素晴らしい人たちで、彼らから多くのことを学びました。例え言葉の壁があっても、コミュニケーションを取ることは可能であり、まるでお互いに家族であるかのような感じでした。人付き合いや物怖じしない話し方について学ぶことができ、さらに、コミュニケーションスキルを磨くことができました。もっと重要なのは、日本に対する関心が高まり、日本は楽しくて穏やかな人がたくさんいる国だということがわかったことです。

### ◆ サイディナ・ハサン セカンダリースクール 生徒

初めて日本の学生の皆さんに会った時、みんな可愛らしくてフレンドリーに見えました。発表は大変素晴らしく、より一層日本について知りたくなりました。彼らは、伝統行事について発表しましたが、とても気に入りました。特に浴衣がよかったです。浴衣はとても可愛らしかったので本当に着ることができるといいと思います。彼らが日本文化を紹介するほど、益々日本に行ってみたくくなりました。

今回の交流プログラムでの成果を通じて、日本文化についてより一層知ることができました。個人的には、日本語の文字・日本語について少々知ることができ、日本語を学んでみたくくなりました。日本のおもしろそうな場所を知り、日本はきれいなだけでなく、素晴らしいものもたくさんあることがわかりました。今回の交流プログラム終了後、私は、将来お金を貯めて日本に行き、今回知り合った日本の友人に会いに行く決意をしました。

## 6. 参加者の対外発信

	
<p><b>【学校交流で日本の魅力を発信】</b> 日本およびブルネイの歴史・伝統・文化等を互いに紹介しあう。現地学生との交流で共有した経験、新たに生まれた友情を英日で発信する。</p>	<p><b>【成果報告会・歓送会】</b> ブルネイ訪問での気づき・経験、帰国後の活動計画を発表。プログラムを通して英語だけでなく、物事に取り組む姿勢も向上、実り多い成果を英日で発信する。</p>

## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>ブルネイと日本の文化や習慣、教育、人々と社会生活等、比較対照して発見した両国の魅力を周囲の多くの人々に伝えるため、発表会を行う。</p>	<p>特にブルネイと日本の産業連携のもと活躍する日本の企業、教育システムの違い、生活環境について継続的に考察、SNS を活用して国内外に広く発信する。</p>